
ザ・テレホンダイヤラー

シュバルトバルト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ザ・テレホンダイヤラー

【Nコード】

N72380

【作者名】

シュバルトバルト

【あらすじ】

電話をかけてかけてかけまくる人がいた。彼の名はテレホンダイヤラー。どんな電話も彼にかかれば無料通話にされてしまう。どんなパスワードもファイアーウォールだって手に取るように暴いてしまう。彼の持つノートパソコン並みの巨大な携帯電話には世界と通じ合える膨大なネットワークが秘められているのだ。

携帯電話の基本使用料、通話料金を無料化する。

そんな通信技術上の大発明をもたらした老個人自称天才発明家だった。

その技術革新とは、自分の携帯電話にとある細工をほどこして基本使用料も通話料も払わないですむようにしてしまう、というひどく貧弱で非合法きわまりないやり口だった。

彼が当然この「大発見」、「大発明」を実際に使ってみたい、世に広めたいという、と切望するのはひとえに彼には電話をかける人もかけてくる人もいないからだ。

長年にわたる孤独な携帯電話研究に埋もれた歳月が、彼のもとから友人や知人といったものを旧世界の化石へと追いやってしまったのだ。

いないのなら作ればいい。

単純にそう考えた彼は、目についた電話番号　　女の水着姿がいつ
ばい載っている　　に電話してみると女友達　　しかも若い　　が
いっぱいできた。

が、こちらからなら何度かけても愛嬌のいい声で電話に応じてくれるのに、向こうからはかかってくることはない。

3コールしたあとにすぐにこちらからかけなおすとあれほど言い聞

かせてもいっこうに電話がかかってこない。

あざとい女の黄色い声などには興味がなくなった彼の次の関心事は、電話に出る人ではなく電話をかけてくれる人だった。

しかし、齢60を超える彼に電話をかけてくれる人を見つけるのは至難の業だった。

彼は迷惑メールをばらまくことにしてさっそく『件名：ミツオ』『私に電話をくれたら10万円さしあげます。電話番号は』
というメールをおよそ50万通送信した。

にもかかわらず彼にかかってきた電話は一通もなかった。

この一年電話をかけること数万回、むこうのほうからかかってきたことといえばこちらが定額制のモーニングコールというものを注文したところ、毎朝したたらずなアニメ声が『ミツオ君！朝だよ！起きる時間だよ！早く起きないとツンツンしちゃうから』などとお決まりのセリフを2週間、そのサービスをキャンセルするまで受けていただけだった。

彼は悟った。

電話というものはこちらからかけても無料でも相手からかかる通話料にお金がかかってはむこうからかかってこない。

彼はさらに研究を重ね、相手からかかってきた通話料も無料にできる新発明をもちあわせた。

だが、何度挑戦しても結果は同じだった。

なぜだ、なぜ電話がかかってこない。

人間関係の基礎的なことから知らない彼はその教えを授かるため、この長い研究生活の間、参加したくても参加できなかったとあるラジオ番組に出場することを決意した。

『はい、こちら全国こども電話相談室だよ。今日のトップバッターはミツオくんだったよね。ミツオくん、今日は何の相談があるの？』

『あの、ミツオですけど、友達や知り合いに電話を何度かけてもかえってこないんですけど、あの、そういった場合、どうしたらいいんでしょうか？』

『どんなお友達にお電話かけてんの？』

『あの、ダイヤルQ2で知り合った友達とか。あと、出会い系サイトで知り合ったジョブっていうイタリア人のゲイの方がいたんですけど年齢教えたら連絡が途絶えて…。』

『…あの、さつきから声の感じでおかしいと思ってたんですけど…ミツオ君年いくつかな？』

『12才です！』

『……』

『そんなことより教えてください。どうすれば電話をくれる友達が

作れるようになるんですか！？それがわかるようになるには電話で相談するしかないんですよ！！』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7238o/>

ザ・テレホンダイヤラー

2010年12月10日22時40分発行